

## 夢洲懇談会などで「記者会見」

### 横浜よりヤバイ！「夢洲」IRカジノ&万博は危険！

#### 縮小・会場変更の決断を！ 記者会見のご案内

昨日 7 日 11 時から大阪府庁 4 階で、夢洲懇談会と大阪カジノに反対する 8 団体懇談会による、冒頭案内の「記者会見」があった。私も夢洲懇談会の一員として出席した。これまで大学の研究室などでインタビューは数多く経験してきたが、こうした記者会見は初めてだ。新聞社だけでなく、テレビ局からも取材があり、1 時間にわたって私たちからの説明と質疑を行った。

両会の桜田照雄代表から夢洲懇談会の活動などが紹介され、私が 2 日の博覧会協会との「協議」について報告した。持ち時間が 7 分なので、3 日にレポートした感想めいたことを話した。博覧会協会は夢洲の土地を借りて万博を開催するのが仕事であり、あとは大阪市などの問題だと責任逃れの姿勢であること。協会の情報公開への消極的な姿勢、硬直的な体制などを強調した。夢洲での万博、IR カジノはコスト上昇と地元負担膨張の構図が顕著になっていることも指摘した。

続いて、港湾行財政に詳しい馬場徳夫さんが夢洲の都市計画変更について、コロナ禍を踏まえて再審議するよう大阪市都市計画局に申し入れしていること。夢洲の埋立てにより港営会計が急激に悪化しており、大阪市財政にも大きな影響をもたらすことを、多くの資料により説明した。懇談会の事務局を務める武田かおりさんから、IR カジノに参加する可能性のある企業（パナソニック・関西電力・JR 西日本・大阪ガス・京阪ホールディングス・ダイキン工業）への公開質問書の説明。大阪万博がうたう SDGs の問題点などを厳しく指摘した。

記者の皆さんからの質問に移り、まず環境アセスメントの手続きと課題について、私から説明した。昨年 4 月に環境アセス「方法書」が確定して調査が実施され、12 月には「準備書」公告・縦覧が予定されている。万博開催に向けて、愛知万博のように駆け足「アセスメント」にならないよう働きかけていく。会場計画の「大屋根」については、計画やコスト、跡地利用と SDGs などに質疑が集中した。2800 万人の入場者を前提にした万博運営費の収支、赤字の場合の負担についても、記者から質問があった。1850 億円に急増した会場建設費だけでなく、コロナ禍を見据えた開催計画と運営費にも注目していかなくてはならない。

夢洲懇談会としても、今回のような「記者会見」を定期的で開催すると、マスコミの人たちとの情報共有・交流もできるのではないか。そんな気持ちになった、元気とやる気をもたらえた会見だった。

(2021年9月8日)